

---

---

## 高齢者に発生した水痘の1例

尾崎千香子, 谷崎英昭, 黒川晃夫, 森脇真一  
大阪医科大学皮膚科

---

85歳, 女性. 既往に関節リウマチ, 気管支拡張症, うつ病がある。  
20XX年3月, 関節リウマチと診断された. 同年5月よりサラゾスルファピリジン 1000 mg/日, 8月よりブシラミン 100 mg/日追加投与された. 10月頃より, ブシラミンによると思われる薬疹が出現したため, 12月, ブシラミン内服中止となった. 翌年3月, 紅暈を伴う水疱が全身に多発してきた. 自己免疫性水疱症を疑って行った血液検査では, 抗デスマグレイン 1 抗体, 抗デスマグレイン 3 抗体, 抗 BP180 抗体はいずれも正常値であった. 右胸部の水疱を生検したところ, 組織学的に表皮内水疱が認められ, 水疱内には壊死組織やスリガラス状の核を有する細胞があり, 水疱部の真皮には核破砕物と好酸球が散見された. 免疫抑制状態での水痘 (外来からの再感染) もしくは帯状の水疱 (主病変部) が顕在化している再発性帯状疱疹が鑑別として考えられたが, 臨床所見と病理組織学的所見より本症例を水痘と診断した. 水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化する際には, 帯状疱疹で高齢者に出現した水痘はまれである. 本症例では, VZV 抗体価を測定していなかったため, 水痘の初発か再発化の鑑別は困難である. 高齢者の水痘発症は極めて稀であり, 文献的考察を含めて報告する。